

『和解の務め』音信 (17-2)
Ministry of Reconciliation in South Africa

これらのことはすべて、神から出ているのです。神はキリストによって私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました (Ⅱコリント 5:18)

イースター、おめでとうございます。死と罪の力を打ち破り、復活された主の恵みと平安が宣教同労者の皆様の上に満ちることをお祈りいたします。今南アフリカは秋が訪れて来ましたが、数十年ぶりの日照りが来ているとこちらの人々は言っております。

1. 南アフリカ 改革教会の教会生活様子 (2)

前回、こちらの改革教会の主日礼拝についてご紹介いたしました。今回は教会の職務 (office) についてご紹介いたします。改革教会には伝統的に教会の中で4つの職務を認めて来ましたが、その4つとは、説教者 (preacher)、神学教師 (professor)、長老 (elder)、執事 (deacon) という職務です。

説教者を志願する人は一般的に神学生時代に執事に任命され、奉仕をし、神学院を卒業したら説教者補として、その後、試験にパスして説教者に任命されます。ある教会に招聘され、牧会するようになったときは牧師 (dominee) と呼ばれます。

長老の職務は、教会の直接或いは間接的な選挙で選ばれ、2年任期で奉仕し、再任することができます。その時、本人と教会会議 (kerkraad, 言えば、長老会) との協議を通して決まります。ここで見る長老の職務は、新約聖書で見られるように牧会協力者のような役割です。長老は必ず一つの区域を担当して、その区域の主の群れを顧み、見守らなければなりません。改革教会は普通年4回の聖餐式を持ちますが、長老は少なくとも年2回、区域の信徒たちの家を訪問し、聖餐式に招きます。その時、教会の説教者 (= 牧師) が作成した短いメッセージを読み上げ、祈ってくれます。時にはその区域の執事が同行して困難がないか、祈りの課題が何かと尋ねてくれます。他の教会ではどうなっているのかは調べておりませんが、ステレンボシュでは2ヶ月一回、教会会議が集まり、話し合います。長老としての奉仕が終わり、休む時はまた一般信徒として喜びをもって教会に仕えます。

執事の職務は、新約聖書の用語 (diakonos = しもべ、奉仕者、手伝いという意味) の通り、教会の中で様々な奉仕に臨みます。特に財政管理、救済、社会奉仕は彼らの務めです。彼らも2ヶ月一回、長老たちの会議のない月に集まり、先ほどの教会の実務的なことを話し合います。今度はここまでにして、次回は家庭集会、小グループの集まりについてご紹介いたします。

2. ステレンボシュ改革教会の設立50周年記念修養会への参加

去る2月17日(金)より19日(日)まで出席教会の設立50周年の記念修養会に参加しました。ステレンボシュから北西の方に車で約2時間ぐらい走ると、大西洋海辺にドバルスケルスピス (Dwarskersfees) という休養地が出てきます。そこのあるキャンプで信徒約120人が集まり、記念修養会を持ちました。修養会のテーマは「教会」であって、招聘された講師は、教会の本質、基礎、使命、方向というタイトルで4回に渡って話してくれました。講論の後はグループ討議、発表、質疑一応答の時間が設けられ、活発な意見開進があり、時間が足りないほどでした。土曜日の夕方にはブライ (Braai = Babeque) が行われ、食べて、飲んで、楽しむ時間もありました。50年間の教会の歴史を回顧し、聖書的な教会の在り方を確認し、未来を準備しようとする、教会の真摯な姿を見たような気がしました。



ステレンボシュ改革教会の
設立50周年記念修養会



ヘナデンドル博物館

3. モラビアン宣教師の訪問

記念修養会から帰って来てからすぐ、モラビアン宣教師たちの村、ヘナデンドル (Genadendal) に訪ねました。モラビア教徒たちは宗教改革先駆者ヤン・フス (Jan Hus) の感化を受けたハンガリ・モラビア (Moravia) 地域のプロテスタントたちです。モラビアで迫害が激しくなると、彼らはチンチェンドルフ (Zinzendorf) 伯爵の領地に避難して来ます。伯爵は彼らを受け入れ、保護してあげ、自然に彼らの霊的な指導者にもなります。彼らが集団で移住していた所をヘルンフット (Herrnhut, 主の避け所) と呼び、毎晩集い、祈る内に、初代エルサレム教会に臨んだ聖霊の臨在と同じような、強い聖霊の臨在と油注ぎを経験したということです。その後、彼らは世界各地に福音宣教のために散って行きます。その時、教職者ではない信徒たちがティームを作って一緒に遣わされ、宣教地で共同生活をしながら現地の原住民たちを弟子化していきます。後に、彼らの宣教スタイルが評価され、テントメイキング (tentmaking) 宣教、ティーム宣教、信徒宣教師などの用語が生じてきました。

私が訪問したヘナデンドルが、つまり、そういった場所です。南アフリカに移住して来たモラビアン信徒宣教師たちはそこで

宣教の村を建設し、共同生活をしつつ、原住民ホテントット (Hottentot) 族を福音化していきました。それで南アフリカの南部地域に原住民の教会が形成され、会堂が建てられました。私が訪問した時、ヘナデンドルには既に宣教師たちが住んでおらず、そこは一つの歴史的な遺跡として残っておりましたが、しかし彼らの労苦によって原住民の教会は色々なところで存続しているということです。



ヘナデンドルの最初の教会の鐘

4. 祈りの課題

それでは、祈りの課題を申し上げ、宣教同労者皆様の執成しを宜しくお願い致します。

- 1) ステレンボシュ改革教会との良い協力関係の中で奉仕が進められていくように。
- 2) 「和解の宣教集い」 (Reconciliation Mission Gathering) を始め、将来、教会へと発展していけるようお祈りしております。ご加禱をお願い致します。
- 3) 聖書研究、弟子化訓練、交わり、会議などが可能な、アットホームなミッション・ハウス (Mission House) が与えられるように。

最後に、同労者の皆様の上に聖三位一体の神様の祝福をお祈りいたします。

南アフリカ・ステレンボシュにて
金煥・貞玉より